

図書館建設運営委員会

日 時 平成 19 年 11 月 16 日(金) 18:00~20:30
場 所 公民館講堂
出席者 専門部会委員 34 名 (町内 32 名、町外 2 名)
設計者及び事務所スタッフ 古谷氏、八木氏、杉下氏、荒木氏
市村町長
教育委員会事務局 市川教育長、池田推進幹、涌井 GL、花井館長、江本、小林
職員プロジェクトチーム 9 名

議事録

1. 開会

(教育長) 皆さんこんばんは。お寒い中、格別今日は冷え込んでおりましたけれども、お集まりいただきましてありがとうございます。10月29日に公開プレゼンテーションを行いまして、今日は古谷先生をお招きしての、図書館建設運営委員会と言う事で始めさせていただきます。

皆で図書館をつくろうと言う事で、皆さんと一緒に話し合い、研究しながら、新しい図書館を造る。そういう意味で、今日は夢のある図書館づくりの第1ページが開いていく所であります。

只今より、開催させていただきます。始めに町長より、挨拶を申し上げます。

2. あいさつ

(町長) 改めまして、皆さんこんばんは。11月の半ばも過ぎ大変、朝晩寒くなってまいりました。そんなようなお寒い中、また今日は、1日お働きで大変お疲れの所を、新しい図書館の建設運営の会議という事で大勢の皆さんご参加頂きまして、誠にありがとうございます。

この度は、文字通り町民の皆さんによる新しい図書館づくりという事を目指しています。過去に2度程、図書館の検討会が開かれました。それから、昨年は、1年掛けて「図書館のあり方検討会」という事で、住民の皆様、議論をして頂き、先進図書館等の見学もして頂きまして、小布施町の図書館のあり方についてご検討頂きました。そして3月に、「図書館のあり方検討会報告書」を町へ提出いただき、その報告を基に、コンセプトを組立て、再度、暑い夏の前に、大勢の皆さんにお集まりいただきまして、そのコンセプトについて議論を深くしてきた訳であります。

その間、今日おみえの方も多いのでございますけれども、その中の幹事の方も、

この何ヶ月間、大変御苦労頂き、御礼申し上げます。

しかし、まだこれからでございます。今、教育長からお話がありましたけども、10月に「プロポーザル方式」により、設計の担当を早稲田大学教授で、設計事務所を自ら立ち上げております古谷誠章先生に、審査によって決定を致しました。

今ここで、ご紹介致します。古谷先生でございます。全国から、166人の方からご応募頂き、選考委員の皆さんに選定して頂きました。古谷先生と、それから八木さん、荒木さん、杉下さんと一緒に進めて頂くという事であります。

古谷先生はこの新しい図書館建設に並々ならぬお気持ちで望んで頂いております。

町民の皆さん、今日お集まりの方はもちろんそれ以外の方も、大きな期待をこの図書館に持っています。

本当に沢山の意見のキャッチボールが必要かと思えます。この春以来、図書館に対していえば、ご希望やご提言を300近くに及ぶほどあります。これらを全部、予算や面積の関係ですぐに実現できる訳にはいきません。

「今、1番最初にやらなければならない事」それから、「将来に可能性があるもの」もしかしたら、「あきらめなくてはいけない事も出てくるかも知れません」と言うようなことも、今後ご検討頂きたいと思えます。

それによって、新しい図書館の方向を決めていただきたいと思えます。

また、先生始めとして、事務所の皆さんには本当に沢山のワークショップを開いて頂きたいと思えます。どうぞ、宜しくお願い致します。

そしてもう1人ご紹介したい方がおります。新しい図書館づくりについて、責任者、館長を公募しようという事で募集をいたしましたところ、全国から25名の方にご応募頂きました。その中から、「花井裕一郎」さんが新しく館長として決定されました。花井さんについては、丁度この後もお話があるかと思えますけれど、映像の演出をやっていたのですが、数年前から小布施に住んで様々な分野でご活躍されていますので、ご存知の方も多かろうと思えます。

最初から館長として、この事業に加わって頂くという事であります。皆さんの熱い思い、それから、期待、それらを集めて今後3ヶ月間に深い議論を是非お願いして、私達の誇れる良い図書館を是非お造り頂きたいとお願いして挨拶にさせていただきます。宜しく申し上げます。

(教育長) それでは、12月1日より正式に新館長に就任されます、花井裕一郎さん、一言ご挨拶、お願い致します。

(花井) こんばんは。12月1日から館長をさせていただきますが、私の考えは、沢山あるのですが、つねに2つの物差しを持って考えています。短い物差しと、長い物

差し。短い物差しは、私たちが、生きている間に何をしなくてはいけないか、もう一つは、100年の中で、私たちは何をしなくてはいけないか。そういう2つの観点を持って、いつも生きております。その考え方が図書館に必ず反映できるのではないかと考えていますし、図書館がそういう風になっていけば、私たちの子ども達とか未来の子ども達とか、ワクワクしてくれるのではないかなと思いますので、是非、皆さんと一緒に、ワクワクを探しながら、図書館というものを、検討し運営していきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

(教育長) では、古谷先生、事務所の方々は、設計者の提案の時に、一言ご挨拶頂きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

3. これまでの経過について

(事務局) 現在ある図書館につきましては、昭和54年に役場庁舎並びの建物の3階にございます。こちらの3階にある立地条件等が、利用しづらいという住民の声等から、平成3年より町の第3次総合計画に上がり、新しい図書館の移転・建設を何度か検討してきました。

それ以降については「これまでの経過」という資料に添って説明させていただきます。

—— (資料説明・省略) ——

1. 設計者からの提案について

(教育長) 続きまして、設計者の方からの提案という事で約20分お願いしてございます。

その後、皆さんからの質疑応答の時間を15分～20分取りたいと思っておりますが、宜しくお願い致します。

その後、本日の会議事項に入らせて頂きたいと思っております。

(古 谷) 皆さんこんばんは。この図書館交流センターの設計者に選んでいただきまして本当に光栄に思っています。実は、この間の29日のプレゼンテーション15分間ということで、厳しく時間内に終わるようにと言われたものですから、少し足りないところもあったと思うのですが、今日は5分余計に時間をいただきましたので、私の考えましたこととお話しようと思っております。

私自身は先ほどご紹介いただきましたが古谷誠章と申しまして、このナスカ一級建築事務所の代表をしており、また共同代表をしております八木佐千子、それから今回このプロジェクトを担当します、所員の荒木、それから杉下という2名。合計4名で今日はこちらに来ております。どうぞよろしくお願いいたします。

——（プロジェクターで画面を指しながら説明）——

それでは改めまして設計案のご説明を申し上げます。私、この仕事の要綱を頂いた時に、それまでにも小布施は大好きなところで何回も来たことはあるのですね。宮本忠長先生が学校の大先輩であることもありまして、たびたびお邪魔をしておりました。で、ここに図書館というお話で、さてどこに造るのだろうと見たところ、駅の直近の距離のところでありまして、これは良い場所だなあと思いました。ですが、小布施の町という思い浮かべると街なかの一带とは少し違う位置にある。そこがこのプロジェクト考え始める最初のポイントでございました。

そこで、小布施の駅と、街を結ぶ「メディアの森」ということを名づけましたけれども、これは小布施の駅に降り立つ、小布施を来訪される方々、それから、毎日のように小布施の駅を使われる小布施の住民の方々、そういった方々が交流する場所であり、同時に小布施の町の中の色々な場所に出かけていったり戻って来たりする時の、それらをつなぐ場所にしたいというふうに考えたわけでございます。

このように、これが町の地図なのですけれども、左上にあります小布施駅のところから見ますと、北斎館に至るまでの間に、多少距離がございます。

この場所は、とても良い場所だとは思いますが、いくつか物足りないなあと思ったことがあります。それは、駅を降りてみると、小布施の町は自然に恵まれて、栗の木がたくさんあるというイメージがあるのですが、駅を降りてみると、ちょっと緑がさびしい…ということが一つございます。

それから、駅前にもう少し賑わいがありたい。さらに夜になって訪れてみますと、この場所がいささか暗く感じましたので、この場所をもう少し明るくしたいと思いました。そこで、この場所にあるという特徴を生かしながら、この場所に今足りないものを今回造る、この図書館交流センターを建てることによってそれを生みだしていきたいというふうに思います。駅から眺めたところですが、北斎ホールの隣にあるということで、大変良い場所です。

ですが、駅から少し中に入って、なかなか気がつきにくい所になっています。

ところが、一旦ここに入りますと、この駅の周辺では一番大きな区域で、小学校の校庭ですが、そういう大きな広場に面しておりますし、お向かいに小学校の桜並木もあり、龍雲寺の緑が見えて、一旦入ってみると素晴らしい眺めがあります。そこで、今回造るこの図書館の周りにももう少し緑を植え足すことで、全体を森の中、緑の中にある図書館というものにできるのではないかと考えました。

今日は紅葉もしておりましたけれども、龍雲寺の緑を眺めながら、この緑を素晴らしい歩く道と合わせて、それらを緑とつなぎ、ここが出発点となり全て

が緑の道で繋がっていくような場所にしたいと思います。

また更にもう一回り広い範囲で見ますと、その中には名前こそ図書館ではありませんが多くの人が来たり、あるいは日常的に使う施設がいくつも点在しております。これらのものを、いわば図書館の一つの分室のように考えられないかと思いました。

図書館という場所が、図書館を目的で来る人だけの場所ではなくて、図書館に行くことがきっかけとなって、様々な他の人達の活動に触れることができたり、あるいは、自分自身が思ってもみなかった、こんな世界もあるのか、こんな仕事もあるのかという出会いがあるような、そういう場所になりたいと思うのですが、そうしてみますと、町の中にはいろいろなミュージアムや、レストランがあり、あるいは郵便局もありもしますけれど、そういう場所にそれぞれ図書館の分室のような本棚を配置して、町じゅう全体が図書館のような、そういう構想を立てたいというふうに思いました。もっと広域になりますと、さらにいろいろ活用できる施設がございました。

そういったものを可能にするのは今日では、図書館の蔵書やなにかを管理する技術がございました。今から建てる図書館なので、これが30年前に建てる図書館でしたら全く違うものになると思います。これから建てる図書館というのは、これから皆さんと一緒に考えてまいります、竣工を21年の春にして、それから30年、50年と使いつづける。つまり、2070年ぐらいまで使っていくものになるのですね。これから長いこと使う図書館を支える技術として、そこには様々な情報技術が出てまいります。とくにRFID化、通称ICチップと呼ばれるものが、非常に可能性を秘めておりまして、蔵書の管理から、個人カードの管理、そしてこの人がどういうものを必要としているということ、この人にふさわしいサービスを結び付ける為に様々な活用可能な技術がありますからこれを是非、盛り込んでいきたいというふうに思っております。

それらが最初の計画の考え方です。次にもう少し、この場所に近寄り、ここを訪れてみますと、北斎ホールがあり、役場があり、公民館がある。小学校があり、そして先ほどの緑がある。こういう周りにあるものを、できるだけ活かしたいと思うのですね。

ですから、今ある木は全部残して使いたいですし、それからここにある施設の中で相互利用可能なものはできるだけ相互利用したい。その中で、特に、まずどうやってこの図書館の部分に入って来るのがいいかというところ3つ方法が考えられます。

一つは、この駅から出てきて、まず右に折れて左に入る一番太い入り口。そして北斎ホールの北側からちょっと細いのですが、外側の通りからは入って来る道もあります。さらに、実は案外一番便利なのは役場の前の広場の方からこ

の下をくぐり抜けて入ってくるという道。こういう道筋、もちろん小学校の方からやって来る、そういう四方八方から近づけるこの場所の利点を活かすためには、どっちから来ても比較的スムーズに入口のところにいける工夫が必要だと思えます。その一番の大きな工夫がこの北斎ホールの東側を通り抜けられるようにする。

今、あそこに立ち下のほうから見ますと、隙間のようになっているのですけれども、その部分を通り抜けることで、あるいはその間を、非常に気持ちのいい木立があり、少し坂道にはなりますが道が通りぬけられるようになります。風も通り、光も当たるようになる。是非とも、この北斎ホールの東側を少し隙間を開けて、その緑も少し増やして緑の小径として、それを経て上からも下からも、どちらから来ても入りやすい場所に入りを設ける。今はこの場所を考えています。

さらに、ここへ来てみた時に、少し気がかりなことがありました。それは、夜来たときに、真っ暗な中を10分位歩いたのですけれども、通りで傘を差して小さなお子さんが車を待っているのですね。それを見た時に、何とかできないかと思ひまして…今でも本の好きなお子さんは、3階にあるけれどこの図書館に来て、放課後過ごされたりしているかもしれませんが、塾が終わった後でもここに寄り、待ち合わせができるように。そして、本があまりお好きじゃないお子さん達でもこの場所に来たくなくて、待っていたくなるような場所。そうすることを通じて次第に本というものに触れていくような場所になりたい。

まずはここに町に明かりをもたらす行灯のような場所。この図書館に明かりが灯っていることで、北斎ホールとの間も、それから小学校側も、みんな少しづつ建物の明かりがもれて照らすことができる。そういうふうに考えました。今これは、真っ暗なのですけれども、その真っ暗なところにちょうど行灯が入るように、この周りを明るくしたいと思います。

これが行灯の状態です。そして、朝になりますとこういう感じになります。これは、小学校の庭の方から見ているところですが、木立ちの中に優しい屋根が覆う平屋建てという図書館の景観です。

館内を見ますとこういう感じになっています。実はこの左側の写真は茅野市で撮りました。茅野市民館。茅野市民館というのは実は、駅の東西通路から直結して入れるように私が設計しましたが、駅と市民館のホールをつなぐスロープの部分に図書館の分室がございます。これが写真なのですけれども、このところ、駅に近くて大変便利なところですから、本を読むためだけでなく、常時皆さんがここにいてくださる。つまり、電車の一分前までここにいて、電車が来そうだというと、降りていけるものです。この時も、最初に見にいった時に、ちょっと寒い季節でしたが、高校生の女の子達がみんな跨線橋の上、

自由通路の上で待っていて、電車が来そうになるとホームへ降りていく。寒さを避ける場所もなかった。そこで、私はその部分を図書室、電車が来る一分前まで本を読んでいられるようにしたいな…というふうに思ったのです。

それと同じように駅に直結はしていませんが、駅に直近の距離にあるから、本を読みたいとはっきり思っていない人でも、とりあえずここにいて、しばらくここで休んでいきたい。あるいは待ち合わせの為にここで待っていようというようなことができるようにしたいと考えております。

館内は、実はまだはっきり決まっておられません。というのは、頂いた要綱に、皆様の基本構想は書いてあったのですけれども、これから皆さんと一緒に造っていきましょうと。それも、現代の図書館として考えると、これまでの図書館以上に、新たに人々がここで交流するという機能が必要になってきます。この交流するための場所と、本を読むための場所をどういうふうにこの中に組み立てるかということ、これから皆さんと考えていきたい訳なのですが、大まかな方針をここに立てました。

ここが先ほどの入り口です。そしてここに桜の木を残します。そして、周りに少し緑を増やし、木立ちの中に図書館を造り、大まかに言うと入って来てすぐのあたりはラウンジのような所ですが、小布施についていろいろなことを知りたいという人の為の場所、そこから先、右手の方向に進んでいきますと、図書館の中心部分。これがまとまって後ろに閉架書庫がございます。あと窓際にも本棚があって、窓際のところに読む机が配置されている。ここがやや静かな図書館のドーム面、自然に緑に面した形になります。一方、まっすぐ進んでいただきますと、既存の樹木を取り囲む垣込みを造ってまわりはややオープンな場所になっている。このオープンな場所の方にも閲覧机を設けることができますが、この中に例えば児童書のコーナー、あるいはお子さんを連れてきてここで時間を過ごすためのお母さんとお子さん、あるいはお父さんでもいいですが、の、そういう子育ての為に使えるようなスペースを、この光がこの木に当たって入ってくるので、この木が反射材になるのですが、木立ちを囲んだ、ぐるっと、丸い中に、比較的オープンなスペースを造っている。奥に入りますと、たとえばお茶を入れたりできるような場所。あるいは、さらに奥に閉架書庫などを配置しまして、その前に図書館の事務を司るカウンターをおきます。で、このカウンターのところから入り口方向、それからこの子育て支援に使われているようなコーナー、それからさらに閲覧室の奥の方向と、全ての方向が事務カウンターの少ない人数のスタッフの方々に目配りできるように配置を考えております。

これが窓辺から見た時のイメージなのですが、窓の近くの所に木立ちがあり、夏場には涼しげな木立ちの中で本を読めるような、そういう環境を創

りたい。それから先ほどから申しましたように、常時皆さんが用があってもなくても立ち寄れるような、そういう場所に、この交流センターがなっていくと良いなというふうに考えます。

実はこれは茅野市でやはり市民館と反対側にベルビアという商業施設があるのですが、そこのキーテナントが撤退してしまって空き床ができた時に市長さんから相談を受けて、そこを活用しようということで造りました市立子ども館。0歳児、1歳児、2歳児、3歳児と、小さなお子さんがおりますけれども、小さなお子さんと訪れ、一緒に本を読んで聞かせたり、あるいは一緒になって遊んだりすることができるコーナーに改造したものです。これも私どもでやらせていただきましたが、このイメージ、こういうイメージも今回のものに使えるのではないかというふうに考えています。全体を、とにかく仕切らないで大きなワンルームにしておくというのが私の考えです。

その中で当然今後、この先30年50年のうちに中味の使い方も変わっていきます。変わった時は各什器類でレイアウトの変更をしていくことで、その時代その時代に必要なものに図書館の中味を作り変えていくことができる。建物自体を建てかえるのは大変なことです。ですが箱はできていて、その中の各什器類で時代に合わせていくことが可能な、そういう図書館にしようと思いましたので僕の提案は、これ三角にしてありますけれども、この空間全部平らです。床に段差一つもない平らな床で、しかもワンルーム。隔てなくてはならないものだけが、北側の方に寄せて保存される。おそらくそれだけではもっと不足していて、少し区画を仕切って行いたい会議もあるではないか。そういったことも出てこようかと思えます。そういう時こそ、たとえば北斎ホールにある施設やなにかを有効に活用することで、この中をやたらと仕切ってしまう。そういう計画にしていきたい。あるものを活用して、ここには今まで無かったものを造っていく。そういう考え方でございます。

少し話が長くなりましたが、これは模型でイメージを直接持って頂いて、先ほど申しましたが、この中のもの、全て家具でできていますから、このレイアウトはいくらでもどうにでもなりますので、この中にどんな場所、どんなものを造っていくか、それは皆さんと一緒に考えていきたいと考えております。

最後に、今後の進め方ですが、限られた短い時間ではありますが、できるだけ多くの皆さんと協働作業したいと考えます。例えば、設計の期間内ぐらいに5回位、あるいはもう少しできるかもしれない。それから工事が始まって着々ここで建物がここに建ち始めてから、これはどういうふうに図書館を運営していけば良いかという点も含めて、再び皆さんとワークショップを構えていきたいと思っております。

今イメージしているものは、今日が11月ですから、12月、1月、2月、3月

と、とりあえず月に一遍位はこのように大掛かりなワークショップを開いて、多くの方々の意見を伺い、そうして皆さんと討議していきたいと考えています。

また、これは群馬県中里村というところで新しく役場を建てるというプロポーザルで、一等に選んでいただいた時におこなったワークショップの様です。これも、役場を建てるのですが、役場が合併するかもしれない、合併した後どうなるかわからない。その時の使い道をどうするということになりまして、実は役場の前の小・中学校、全部合わせても43人しかいないのですが、その43人のお子さん達と、その今建てる役場の建物を、役場が必要でなくなった時にどうやって使おうかというワークショップをおこなったのです。実は工事中に合併はどんどん進んでしましまして、この建物、一回も役場として使われなまま、すぐ第二の人生を歩むのですけれども、それでも子ども達、あるいはお母さんたち、役場の職員の皆さんたち、一緒に役場では無くなった時のことも考えてみました。

建物そのものは全く変えずに中味の家具だけが、役場の家具ではないだけで、今は図書館や体力増進のためのフィットネスという、いろいろなものにつながらなく使われています。

少し時間が長くなりましたが、私たちの今までをご紹介します。これはアンパンマンミュージアムを作る時のワークショップです。この時は7分の1の模型作って1年間、どんな建物ができるのかというようなことを子どもさんたちと一緒に進めて参りました。最初は模型の所に自分の7分の1の人形並べて写真撮ったのですが、工事が終わって1年後には全員そろってもう一度記念写真撮りました。こうすることで実は、これから建つ建物がどんな建物になっていくのか、あらかじめ付近の住民の皆さんが理解して下さり、そしてできあがって後、スムーズに使い始めていただく。

これは先ほどの役場です。役場ですが、役場として使われなまま町民のための施設として稼働している。役場のロビーだったはずの所は図書館になっています。

そしてこれが茅野市の市民館ですが、先ほど申しました駅と市民館を図書館でつなぎました。この時は35人の市民の皆さんと、足掛け5年間に渡ってワークショップをおこないました。5年間の中身は、2年間設計中、それから工事の期間2年間、そして工事が一応済んで、建物本格始動するまでの約1年。

最初には基本計画、その次はどういう運営をしたらいいかを考え、さらにできあがってからそれを実際動かしていくにはどうしたらいいか、催し物をどう考えるかを、この方々と一緒に協働して創り上げたつもりでございます。この写真は皆さんがホールの着席の角度をどのぐらいにしようと、みんなで確かめてくださっている。それからその時には大きな模型を作りました。この模型を

役場の1階のロビーに展示しておいて、ここでもまた、皆さんと検討ということをしてまいりました。これは最初の半年間だけ、基本計画作る前だけにやったワークショップの会議です。その結果、出来上がりましたのがスロープの所にある図書館です。また、ついでに折に行ってみていただくと雰囲気がわかるかもしれません。おかげさまで、この図書館のためにだけ来る人だけではなく、これからまだ図書館にいかうかどうか、そういう習慣もなかった方も毎日のように来てくださって、次第次第に本に触れていって頂けるような場所になったと思いますし、本を読むために、あるいは電車を待つために来た高校生の皆さんが、もうちょっと本格的なお芝居であるとか、演劇であるとか、美術館の情報を身近に知ることができて、次は美術館まで行ってみようという気になる。いわば市民館の入り口のようなものになりました。これも、正に今回のこの図書館交流センターが小布施の町という、全体が大きな美術館でもあり、交流センターでもあるわけですが、そのひとつの入り口になるようなものになるといいなと考えています。

最後になりましたけれども、一つの建築を創りあげるといことは、このような皆さんと協働する機会が生まれますし、しかも、住民の皆さんだけではなく役場の皆さん、そして我々専門家といったものが、それこそ、みんなの知恵を出し合いますと、1+1+1が3でなくて、5や10になるような、そういう場所になると思います。これから先長いお付き合いになると思いますけれども、ぜひよろしく願います。ありがとうございました。

(教育長) どうもありがとうございました。それでは、貴重な時間ですので、早速質疑応答に入りたいと思います。質問がありましたらどうぞ。

(委員) 私の気がついた所で、教えて頂きたいと思います。いくつかあるのですけれど、子育ての為に他の人との連携という事もありました。

そうすると、今だと、エンゼルランドセンター、千年樹とこれから始まる図書館での子育てということをどう繋げていくのかという時に、やはりそこは人が繋げていくのだと思うのです。

そこでまず、人が要ります。それから、真っ暗な中で塾帰りの子ども達が待っているのを図書館で受け入れるという話でしたが、これも、今の図書館は5時で閉めています。7時、8時まで、開くという事だと思います。

それから、駅の待合室代わりと言う事で、開くとしたら、朝ももっと早くあけるとい事だと思います。これ全部、人がいる事だと思います。

そうすると今、図書館で働いている人はとても人手がなくて、困っています。町の方としては、これから、どれだけ人件費にお金が出せるのかということが

1つとても心配です。

それから、緑が沢山あります。私の感覚で、大変恐縮ですが、私はここに来て40年ばかりなると思いますが、「緑は山に雁田山にあり」そして「川は千曲川にある」。そして、その間の土地は、人々にとっては、耕作をして生活をつなぐ土地だったのではないかと思います。そして、雁田に居た100歳近かったお婆さんが、家へ来た時に、昔は松川が氾濫しないように松林をちゃんと植えておいて、松川が氾濫した時はその松を切り倒して、そこに土嚢を積んで、災害を防いだんだと言っていました。そこを切って皆団地にしていくのだけど、大丈夫かなと100歳近いお婆さんが話しをしました。その後の栗が丘の土手が抜けた事がありました。やっぱり、昔の人達が大事にしてきた土地というものを私はどういう風に繋げていってくれるのかな？という風に思うのが1つと、もう1つはやはり、緑が沢山あるとありがたいのですが、その後の管理にはやはり沢山のお金が掛かると思います。そういう点で、町の予算がどうなのだろうかと、とても疑問に思いました。

今でも、とても人件費が足りなくて、レファレンスなどは、もっとやりたいけど出来ないという部分がある気がするのです。ですから、その辺の予算のことがとても心配でした。

それから、ワンルームにして仕切らないというお話でした。仕切る必要がある場合は北斎ホールの部屋を使うという案を出されました。私たちは、図書館をお借りして子ども達に語りや、読み聞かせをしているグループですけれど、今はこのスペースがないために、保健センターの2階の訓練室をお借りして活動しています。それは、図書館の階段をおりて移動するので、どこでやっているのか分からない子ども達がたくさん居ます。でもそこだと、上の図書館にすぐ本があったり、道具があったり、また、おはなし会が終わったら子ども達が、そのまま上に行けば、本を借りて帰るという風に繋がっています。

でも、その部屋が空いていない時は、公民館の学習室を借りて、おはなし会をします。そうすれば、図書館とは随分離れてしまいますので、もう一度図書館に戻ると言うのは、ちょっと遠くなります。折角新しい図書館ができる時に、図書館ではない場所、北斎ホールの方に移動しておはなし会をするというのは、とても勿体無いという気がします。

そして、ワンルームであった場合には、声の問題をどういう風にするか。交流の場という事を、盛んにいわれていましたけど、交流をするということは、人が話をしたり、子ども達がそこで遊んだりする、本を見ながら読んでもらえば声が出る。そんな、声の処理をどうするのかという風に思いました。

図書館には、おはなし会だけではなくて、母親文庫というグループもあります。その人達が例えば文集を出すとして、話し合いをしたり準備をしたりする

時にも部屋がありません。それで、同じフロアの所でやると、他の本を読みに来ている人の邪魔になってしまうので、今も困っています。

ですから、ワンルームという事で仕切るという事について、また、ご説明お願いします。以上です。ありがとうございました。

(古 谷) 予算がどうなるかということは、私がお答えする事が出来ないのですけれども、ちょっと考え方をお答えしたいと思います。

図書館そのものに関しては、町のほうでお答え頂きたいと思いますが、確かに、今のように、何かの運営を出来るだけ時間を長時間にしたり、色々対応のサービスをしたりしようとするれば、それだけ人が居る。それは間違いないことです。

ですが、これは別の県立図書館の検討会議にも出させて頂いているのですが、そういう所でも、最近言われている事なのですが、そういう人が居るサービスというのは必ずしも、人件費を払って誰かにして頂くということは出来るだけ考えない方法があると思います。

というのは、茅野市の市民館はその通りなんですけれども、これも多くのボランティアの方々の参加によって出来あがっています。もちろん、それだけに全部を期待する事は出来ません。ですが、これを全部誰かにお金を払って雇って行くのではない範囲でも、町の方々が好むサービスなら、「それを提供しよう。」という考えの方が出てきて、その方々が、館の運営に参加していただけるような仕組みを整えていく必要があるんじゃないかと。

もちろん、その中は何人か、何点か費用を必要として、積極的に人件費を払ってでもやらなくてはいけないこともあるかもしれない。それを、仕分けをしていく。こういう事が欲しいと意見を出し合って、それをお金で解決が出来るのか、空間で解決が出来るのか、あるいは、皆さんのようなボランティアで解決できるのか、という解決方法を皆さんで一緒に考えていくというのが良いかなと思います。

それから、2番目の緑の管理費の方にも全く同じ事が言えます。今現在、高崎市で小学校を作っておりますが、隣に川があります。その土手を、子ども達が登校路に使えると随分良いと、思うのですがこれが1級河川の土手になっていまして、誰が管理するのかという事になると、実はここの地域の方々が、その緑の土手を、ボランティアで手入れをしています。それがその小学校の所まで伸びていくかというのはこれから皆さんと一緒に話し合うべきなんですけど、これもある程度予算で対応しなきゃいけない部分と、それから場合によっては、皆さんのお力を借りてですね、ここに緑があった方がいいなと言う事であれば、これから皆さんで、緑を育てようあるいは、手入れをしようという範囲内で、

緑を植えて行こうという考え方もある。

ですから、我武者羅に、遮二無二、緑を植えてしまうのではなくて、後の管理は任せたといいのではなく、どのくらい緑を植えれば、どのくらいの労力と引き換えになるかという事で考えていけば良いことだと思います。

それから、3番目のこれは具体的な事なのですが、基本的な大筋での意見としては、こういう地方公共団体の町の公共施設というのは、必要があれば何でもそれ専用の箱をどんどん作って行くという事に反対なのです。もちろん作らなければならない時もあります。ですが、図書館だから図書館専用のものを、何から何まで揃っているものを作るといって、交流なら交流施設を造る、子育てなら子育ての場を造るとすると、いつまでもきりがいい。そこで、出来るだけ、兼用したり、あるいは、時間を使い分けたりする事で、一つの箱でも2通りに使えるとか3通りに使えるとか、そういう使い方の工夫というのもするべきではないのかと思うわけです。

その中で、同じ建物ではないけれど、直近に使えるホールがあり、役場の施設があり、公民館がありという、この立地条件を生かせば、ある種のもの、そこにある、今あまり活用されてない施設をもう少し有効に活用するという方法で解決する事もあるのではないかと思います。その上でどうしてもそれじゃあ駄目だとか、今回造る中にどうしてもこの位のスペースを確保した方が良いというのであれば、それを確保する事は、建築的にはなんの問題もないのです。

これだけの部分は、閉じられるようにしようという事があればそこに、杭を入れたり、ドアをいれたりというような、まだどういう風にでも出来ると思いますが、ただ全部ここに、とにかく必要なものは、全部図書館の中にといい風にはならない方がよいのではないかと思います。あるもので使えるものは勿体無いから使う。不便はあるかも知れないけど、あるものを使うという事も一緒に考えていく方がよいのではないかと思います。絶対造った方がよいものは造るし、造っていけばいい。この空間、ワンルームと言いましたけど建築の考え方は、柱、梁、土台という、いわば人間の体でいえば骨格のような部分と、それに、枝葉のような、肉がついているというような部分が組み合わさって出来ている。この、大きな大骨の骨格の所を、度々、改築してみたり取り替えてみたりするのは綺麗ではない。将来といえども、増築するとなると、それなりの大掛かりな事業になるかと思っています。その部分は固定しておく、こういう部屋が必要だとかは洞察力が問題です。家具よりはもっと大きな問題ですが、ある時は、30年後20年後にはこれは、なくても良いかなとなった時には、取れるようにしておく。こういう事が大切だと思います。これはちょっと専門用語になりますけど、スケルトンとインフィルとって、スケルトンというのは、骨格の事です。インフィルというのは、間仕切りや可動部分の中に入れるものの事。

それが今までの建築は骨格も入れるものも一緒に作られていて、それが、中に入れられたものだけを取り替えようとしても、全体の骨組みごと取り替えないと上手くいかないような事が多かったんです。そういう意味で、今回は大きな骨格が決めてです。中の仕切りを必要なら仕切ること。必要がなければ、家具位で仕切らない。あるいは、今必要だけど、10年後要らなくなったら取り外せる。こういうような考え方を是非とり入れてほしい。それからこの全くオープンな中に、先ほど茅野の市民館、こういうような背の高い囲いに囲まれた赤いベンチを置いたら、仕切らずにすむことであればやりますし、もっときちんと仕切ったほうが良いというのであれば、骨格の部分をしっかり仕切るそういう風に充分考えられます。

こんな風に硬く考えないで「こんな事出来るかな」といろいろおっしゃっていただいたら、建築を専門にしておりますので、「こういう事でも出来るけど、どうでしょうか」と提案してみますので「こういう風に使いたいんだ」という事を、是非おっしゃっていただきたいと思います。

ただし、いつもこれだけは困る事なのですが、こういう事をしようとすると、「とにかく、ここは、4畳半にして下さい。」という風になると、『4畳半』じゃないと答えにならない。ところが「この『4畳半』の部屋を作ってください」という事を通して、それはどういう事に使いたくて、どういう事をしたいから、私はここに『4畳半』欲しいのかという事を一緒にお聞かせ頂けると参考になります。『4畳半』が欲しいのではなくて、『4畳半』でこういう事をしたいと思っている。こういう事をする工夫は『4畳半』じゃなくても出来る事もある。だから解決の方法は、いろいろある。何が何でもこうして下さい、ああして下さいと言われると、答えがそれ以上出せなくなるのですが「この所はこういう風に使いたいと思っているのですよ」という事を言うて下さるとありがたいと思います。よろしいでしょうか？

(教育長) 続いてどうぞ。声の方の問題はよろしいですか？今のお話で、この問題もこれから解決していくという事で…。

(委員) そうですね。今のおはなしの活動の中では少し高めのベンチというのでは声がもれてしまいます。そしてまた、周りの声も入ってきてしまうと思いますし、これからそういうお話をして、これからの問題だと思います。

(委員) 小学校の娘を持っている母親なのですが、先生は駅前の方から緑が繋がると、大変、利便性も良くと見えるのですが、小学校のグラウンド側から子ども達の立場になってみた時には、緑というのは、役場の入り口もそうなのですが、街路灯をつけても、葉が茂っていると暗闇になって大変危険なのです。現状で、2年後に、そう考えた時に景観を考えるにしても非常に木の下が暗いので。

(古 谷) 昼間の事ですか？

(委 員) 昼間もそうかも知れませんが、安全を考えると、実は去年卒業した息子がいるのですけども、卒業の木を植えたいと、小学校の方に打診した事があるんです。そうしましたら、今ある桜並木も、大変虫が付いたり、アメリカシロヒトリですとかそういう、虫が付いたりだとか、毛虫の問題だとか、後、死角ができるので安全性の問題、大変その様なご意見伺った事があるので、皆さんが集まる時間帯にもよるとは思うのですが、緑が多すぎるというのも、私たち母親にとっては、それが、安全であるかどうかと言う事がとても心配です。現在、こういう世の中になってしまった事が、残念ではあるのですけれども植えすぎてしまう事が、大変防犯の意味において心配な面が出てきます。

特に、子ども達は図書館使いますよね。学校の帰りとか、塾の帰りとか。使うとなると、今真っ暗です。見ていただければ分かる状況ですよ。だから、私としては、図書館の中の緑としてのあり方を、もう少し皆さんの意見も伺いながら、検討していってほしいと思います。以上です。

(古 谷) ご指摘の趣旨は良くわかります。ある種、程度の問題とも思いますが、どのくらい植えるとか、先程の維持管理の問題もありますように、どのくらいの物を植えるのが、1番適切とかはありますけれど。

実はですね、夜の事で言えば、木は悪者ばかりではないのです。というのは、今この校庭の所は一階の所に明かりをつけても、なかなか、明るく感じないのは、空に向かって、明かりが放たれてるからなのですね。明るさと言うのは、光が当たった物があって始めて明るく感じるのです、実は、適当ないい感じの木があると、それが実は室内の中を反射してくれて、そして、その中に明るさを返してくれるというような効能もある。

ですから、密林のようになり見通しがきかないというのであれば別ですけど、そこまではいくとは思いませんが、夏場には強すぎる日差しを遮ってくれて、やっぱり木は先程お目にかけた写真もそうですが、夏の間遮る事によって、随分地面が、冷えます。それで、冷房費も随分削減される。そういう効用もあるし、この地面の階は駄目ですけど、その前に適当な木立があると、室内の光が行くだけでもそこに反射して地面が明るくなります。そういう、使い方もございます。それから必ずしも悪者ではない。それから、虫の問題や、落ち葉の問題は、緑を植えようとするとも必ずそういうご意見がでます。これは事実なのですけど、人間はやはりある程度、木と一緒に暮らした方がいいと思うのです。全く遠ざけておいてというのではなくて、身近にそういうものがあって、慣れ親しんで育ったり、日頃生活していくと、そういう木に対する愛情も沸いてきますし、どういう風に状況になったら良いのかと言うことも、段々分かってきます。遠い所にある緑は、人が勝手に手入れをするのですが、自分の身の

回りにある緑というのはもう少し優しくして頂きたいなと思います。

(教育長) 古谷先生の提案に対して、続いてご意見ありますか？

(委員) 質問させて下さい。大体、開閉架で4万冊ずつ、8万冊の図書が収まるというような話で設計をというような事だったかと思うのですが、8万というのは、人口比で考えた図書館の基準で考えると、小布施としては、全く足りない数になっているのです。一応8万冊ということだったのですが、最大限どのくらいの本が、入るように設計をしたいという風にお考えになっておられるのか。

町中どこでも図書館というような提案があった訳ですが、正直に申し上げると、非常に沢山の本があり、それを分担して管理をしようという思いもあるようなのですが、小布施に関していえば、人口も少なく町も小さいという事を考えれば、本館の一つに出来るだけ、沢山の本を入れておいて、そこで、この全ての情報にアクセスできるという環境を作ることのほうが、私は図書館としてのメリットがあると思っています。

そういう時に、足りない閉架最大どのくらいの本を納めることができるのか。できる、あるいはできるようにしたいと、古谷先生がお考えになっているのかをお聞きしたいことが1点。

それから、公共図書館というのは、もともと図書館は「静の空間」、静かな空間と言われてきたのが、最近は「動の空間」であるというふうに考え方が変わってきているというように聞いています。特に小布施の図書館は小学校に隣接しているということもあって、子どもがたくさん来ます。私も先程子どもを連れてきていたので、ちょっと賑やかにして申し訳なかったと思うのですが、静かにしていると言われて、静かにしてられる子は限られていると思うのです。

ワンフロアの時に、子どもを連れてくるのに母親がびくびくしながら来るような図書館であってはならないというふうにも思うのです。

ただ、静かに本を読みたいという方もいらっしゃるのも事実で、そういう時に北欧などで今さかんに作られて、今国内にも入ってきているようですが、静かに本を読みたい人がいる空間、静粛あるいは、ビジネスルームと呼ばれるようですが、そうした空間を区切るというような考え方も出てきているように伺っています。先生としては小布施の図書館はどんな空間であるとお考えになっていらっしゃるのか、この2点についてお伺いしてみたいと思います。

(古谷) 1点目の蔵書数に関しては、正直に申しまして、開架で4万、閉架で4万冊と伺ったので、今それを並べてみたというところですが。実は図書館というのは宿命的に、その蔵書は増えていくことは事実です。ですから、この建築物の中に、収蔵しろと言われれば、まだその5割増やそこらは入れろと言われれば容れられます。ただし、当然ですが、最初に決められた区画の中で行われますか

ら、それを入れていく時には何かを犠牲にしていくことになります。

それが先ほど申しました、すべてを将来のストックのためのスペースまで現在それを全部用意しておいて、そして、それを順々に詰めていくという考え方が、いつも良いかということをお皆さんと一緒に考えたい。今、必要なものはこれで、将来、では閲覧室の部分、あるいはなにか違う部分の機能を削ってでも蔵書数増やした方がいいのかどうか。蔵書数を増やすために、収蔵書架を並べていく方が良いのかどうか。それを考えると、増やすことはいくらでも可能なのですけれども、ただ黙って増やすことができるという事には今は考えておりません。それは 1,000 m² という決められた床面積をどういうふうに使っていったら良いか。これは固定しなくて良いのですよ。現段階ではこう使い、将来はこう使いと変化していったら良いと思うとそういうふうに使っています。

もう一つの小布施の図書館として、どういう考え方の図書館が好ましいかと考えているかということに関しては、私は実はとりあえずはっきりした意見が一つありまして、それは今後、小布施に限らないことですが、一般的に言うと、図書館というものは、自分が欲しい本がはっきりしていて、この情報が得たいというものがはっきりしている人にとっては、図書館に出向かわなくてもそのサービスが受けられる方向にこの世の中は向かっている。

今ではかなりのものをインターネットを通じて読むこともできるし、あるいは欲しいと思ったらそれを注文することもできる。それを図書館のサービスとして買わなくても、借りるというサービスに応用することも技術的には全く問題ない。そうすると、大きな目で見るとこれからの図書館というのは、そこに本を管理しておいて、そこに人が来て、その本を見るということよりも、実は自分がはっきりした目的を持ってこの本を探したいとわかっている人の為のものよりも、自分の求めているものは何だろう、なんだかよくわからない。まだ自分が見たことがないもの。そういう人達が直接出会うための場所になってくる。これは小布施に限らず図書館全体がそういう方向に向かうというふうには私は基本的には考えています。細かいことでいろいろあります。つまり、電子的な情報技術の発達によってかなりの部分はそれによって自宅のパソコン上に呼び出したり、宅配することができたりするのですが、絶対にできないこと。それは、そこに行かないと会えない人、そこに行かないと見られないもの。そこに行かないと、知ることもなかったようなものを知るといって、本物の現実の空間だけが果たすことのできる役割というのは未来永劫図書館の役割として残ると私は考えます。その意味で、実は今現在の適正な職員配置とか、現在の仕様のパターンとか、もちろん現在の需要として大事なことですけれども、それにあまりにもきちんとしてしまっていて、そのための専用の間取りにしてしまうと…、今は建築はできるだけ長寿命化しようと考えている

のですけれど、実は何の事はない。建物そのものは長寿命なのだけれど、その間取りなどが時代に合わなくなり壊される建物がたくさんあるのです。そういうことにならない、なりたくないなというふうに思っています。ですから図書館は、蔵書室をもっと、5割増でもしていくのが使命だということが現実であり、コンセンサスであれば、それを第一優先にしていくし、あるいはむしろそれはほかのものに譲ってもここで人と人が出会ったり、あるいは何かをしたり、活動そのものの場所にだんだん移行していきましょうということが、コンセンサスが得られれば、そっちの方向にも向かえるようなそういうハードウェアとしての図書館建築をするほうがいいのではないかと思います。

(委員) 私は先生の模型をそれを見て、緑とトイレの場所が大変気に入りました。というのも、高齢者が来ると、高齢者はトイレが近いということでそれと管理する所からトイレが見える設計図だったのです。そうすると、子ども達、また女性の防犯という事に対しても、見える場所にあるとなれば、他の方と比較してみても先生のもの一番はつきりしていて良かったと思います。

今回の先生方の図面も、5人の仲間で見に来たのですけれども、「トイレどこ？トイレどこ？」と皆でトイレを優先的に探して、「あ！ここにあった、ここが一番近いね。」と。また、管理している所から見えるということが良かった。

また、緑がいっぱいあることは目にも良いし心も安らぐし、龍雲寺の森とこういう自然のことを生かしてあってこれは小布施に合う図書館と思って私たちは、先生の設計図が通ればいいねえと話して帰ってきたということでございます。

トイレが、図面引いてくうちに移動しても、管理しているコーナーから見える場所に置いていただきたいと思います。それから、お年寄りがもし、赤いSOSのランプ押した時にもすぐ駆けつけられるというのも管理の方だと思いますので、よろしくお願いします。

(古谷) ちょっと関連してですが、実はこの案は不思議な形をしているように見えると思うのですけれども、一番心を砕いて考えたことが、出来るだけ少ない人数でこれを管理しやすくするにはどうしたら良いかということなのです。

当初は、ここの敷地に駐車場の用地があってL形の形を私たち頂きました。そして、駐車場の所にはみださないようにということで苦労してこれを造ったと思うのですね。この計画を。このL形に造ろうとすると、かならず死角が生まれてきます。やっぱりLですから。そうすると、1箇所で見通せるところがLの角の所にすればそれで良いのですけれども、なかなかそういうふううまく組み立たないこともある。そこで、この種の公共施設、必ず問題

になるのは、できるだけ少ない人数で管理したい。そうすることで時間を延ばすこともできるのですね。同時には少ない方だけでも、交代して長い時間開けていることができるというようになってきますので、そういう少ない人数で管理ができるという配置をまず考えました。

もう一つ、建築の専門的なことをいいますと、トイレ、控え室、水回りですね、当然お茶を淹れたりする場所もあるので、この所に設備を全部集中する。で、そこで必ず設備の配管・水道管がくるわけですが、これをあっちこっちに分散しておく、そのための経路も長くなりますから、コストも高くなりますし、だいたいトラブルが起こるのはそういうところで、人的なトラブルも機械的なトラブルも設備のある所で起こりますから、そういったものをこの、閉架書庫の寄りのこの四角い所に集約したいと思いました。これを分散してしまいますと、コストもかかるし、トラブルも多くなるし、トラブルが発生した時の対処もその少ない人数で対処しにくくなる。これをまとめるというのが、ちょうど扇の要の位置なんですけど、扇の要のところに置いておくのが良い。ただ、困ったことが一つありまして、図書館だからやっぱり本棚がある。ある程度の高さにはなります。そうすると、本棚の向こうは見えにくい。そこで今これは、本棚を不思議に三角に並べていますが、どうしてか…こちら方向には確かに見えにくいけれども、この人の眼のある方から見ると、本棚と本棚の間が比較的、このプランでいきますと、こちら側をいろんな人が行ったり来たりする。人の多い方から本棚の中が、誰かしらが見ている。これは館員の方だけとは限りませんが、誰かしらが見ているような配置にしたらどうかなあと、思って仮にですけども考えたのがこの案です。逆に本棚をこう並べることで、確かに音を完全に遮断することはできないですけども、さっきの、少し落ち着いて本を読みたいという方々が本棚の並んだ一番、本棚の群れの反対側へ行くと、こちら側を多少、がさごそ動いたりする人からは距離をおける。できるだけ、凝りたい人は先の方へ行けば行くほど静かになるのです。そういう、自分にとって丁度ここがいいやと思うところが探せるように造るのがいいかなあと、思って、こう考えました。

(教育長) ありがとうございます。このあとまだ3つの分科会にまた分かれて、今出たようなこともまた改めて、ご意見をまとめたり、やりとりする時間がありますがさらにもうしばらく、5分くらい意見交換したいと思いますがいかがでしょうか？古谷先生に直接のご質問がありましたらどうぞ。

(委員) 先ほど来、施設の相互利用というようなことをおっしゃられている訳なので

すけれども、相互利用するにはやはり一番近い北斎ホールとの構造的なつながりとしていうものがあれば、より一層使いやすいような気がするのですが、その辺のことについてはいかがでしょうか。

(古 谷) 実はプロポーザルの案をまとめる段階では、私は完全に直結する所までいなくても良いのではないかなと、正直思っておりました。

ただし、先ほど申しましたけれども、役場前からくぐりぬけて入るあの入り口を重視する必要がある。つまり、あそこから行き来しやすくなっていることで、ホールや、役場や、その他諸々の施設とのつながりが良くなるはずというようにまでは考えました。ただ、直接つながる所までは正直考えませんでした。

その後いろいろ伺ってみると、割合頻繁に北斎ホールの北側の所にある路地、そういった路地も利用する可能性があるというので、今これからですけれども、どうやってつなげるかということを考えてみたいと思います。

ただ、これは痛し痒しの関係がありまして、この北斎ホールと新しい図書館の間を、できるだけ気持ち良く通り抜けられるようにしたいという思いもあります。特に北側の所から見ると角のところから、結構木が密になっているので、ここの所をうまく木の根が通りぬけて、今屋根で描きましたけれども、屋根の一番下が欠けているポーチになっているので、今のプランでいきますと北斎ホールの東側間が木立ちの中を通り抜けられるようになりたいと思い画いてある。

ところがつなげるとなると、その所を横断してつなぐことにきつとなります。それがガラス張りで横断すればその雰囲気は残るのか、けれど風は通らなくなるけれどと、そういうことを思います。

これはここにある北斎ホールを省略してある訳ですけど、ここの間の部分を通り抜けても、役場からグラウンドに通り抜けても、どちら側からも風がそこから入るように考えていたのですけれども、勿論予備的には別の場所も入れるように開けることも出来るわけですが、メインはここに考える。

それはやはり、役場前の広場と繋がる、実際に繋ごうとすると北斎ホールのこの辺をガラスの廊下でも繋ぐことに多分なると思います。それではっきり遮断してまでも内部で繋がった方が良いのか、それともそうではないのかというのは使われ方で、新しい図書館のどこかに仕切った部屋を、考えていく中でこちらでそれが出来るなら、直接北斎ホールと繋がってなくても良いかなという感じで、そのバランスがどうかだと思います。これも皆さんと一緒に考えたいことです。今は、僕が思っていたよりは繋いだ方が良いというご要望がありそうなので今、繋ぎ方を宿題にして頂いて帰ろうかと思っています。

(委 員) 先に緑の話がありましたが、樹が前にあることで夏の間の冷やすことできる話があります。その他のエコのポイントはありますか。特に京都プロティカ

ルとか、そういうエコのポイントは他の所にもありますか？

(古 谷) 実、周りに樹を植えることも一つですが、同時に周りに庇を少し出そうとしているのです。この庇によって夏場の直射日光は入らないようにしています。でも冬になると入って来るように上手な所まで庇を出して日照を制限する。それで夏場の冷房をまず押さえましょうと、そして小布施の場合はどちらかというと寒い所なので冬場の暖房を、床を2重にしてその暖房で賄うのが良いのではないかという風に思っています。

こちらの方はそれでやりますけども、冷房の方はまず出来るだけカットできるようにということが一番を考えています。それから、直接それがサステイナブル(環境に負荷をかけない)デザインの技術という訳ではないですが、その場合は屋根面の所が一つの大きなポイントになりますので、この屋根の所のインシュレーション(軟質繊維板)で、断熱を充分おこなえるよう厚くしようという事を考えてます。

実際はそこを、屋上を緑化、芝生にしてあげるとエコ的だといわれるのですが、実はそれはそれほどでもない科学的には言われておまして、緑があるという効果はあるけれども、実は断熱とかでいうと、断熱材をある厚さを入れた方が良いのです。冬場のことを考えると、今はメンテナンスが必要な屋上緑化をするよりはその部分はしっかりした断熱材を入れた方が良く考えております。

それから3番目は、直接的な設備の話ではないのですけれど、先程申し上げていたスケルトン(柱・梁などの棒状材を主体として構造体をつくる)をそのまま使っていて、中はレイアウト(家具などの配置)によって新しい時代に対応していくということの考え方自体が一つのエコロジーの考え方だと思います。

その限定しやものの為になにかを造ってしまうのではなく、造ったり壊したりしないで、何か模様替えをすることで新しい機能変化に対応できるように、あまり大掛かりな工事をしなくても、将来の違う時代にも使えるというのは、大きな意味でいうと、それもエコロジーに貢献しているのではないかと思います。

(教育長) ありがとうございます。

先程あの人件費・管理費の面も心配だというお話がありました。これからまたそんな面の沢山のヒントや運営についてのアドバイスを頂いて、話し合っていけたらと思います。以上で質疑応答の時間終了してもよろしいでしょうか。では特にない様ですので次の項目に進行させていただきます。古谷先生どうもありがとうございました。

5. 会議事項

(1) 建設運営委員会の組織と役割について

(教育長) 会議事項の方に入らせて頂きます。続きまして図書館建設運営委員会の組織と役割について、今まで意見交換会、建設全体会議の中でご苦勞をいただいている幹事会の代表での木下さんに、この図書館建設運営委員会の組織と役割について説明をして頂きます。

(木 下) 木下と申します。それでは説明をさせていただきます。お手元 A4 資料「図書館建設運営委員会組織(案)」の図をご覧ください。

まず、今ご紹介頂きました幹事会が担っていた役割というのは、全体で意見交換会があり 50 人以上の沢山の皆さんにお集まりいただいて、沢山のご意見、項目としては 300 を超えるご意見を、そのたびに全体会でまとめていくのは大変なことなので、それを別の日に幹事 7 人で集まり協議をしてまとめ、専門家や行政と調整して次の全体の意見交換会や全体会に問いかけるという調整役としての位置付けで今まで開催してきました。幹事については 7 人おりましたが、自薦・他薦で全体会の中でご承認頂いて今に至っています。私は幹事会の座長と言うことでその代表をさせていただきました。

その幹事会の中で、お手元にある図書館建設運営委員会組織(案)についてご提案させていただきます。

今回、設計者が決まり、館長が決まり、設計に入っていく中、また再来年の 4 月のオープンに向けた運営等について話し合うために、改めて今回専門部会委員を募集しましたところ 49 名の皆様にご応募頂きました。その 49 名今日集まって頂いている皆様が、図ですと図書館建設運営委員会(全体会)の委員ということです。考え方としては、一番大きな枠として町民があり、町民からの意見は随時受け付けているのですが、特に志を持ち良い図書館を造ろうということで集まって頂いた方が、この中の枠の「図書館建設運営委員会(全体会)」の委員という位置付けです。

ここから、もうひとつご提案なのですが、全体会としては代表 1 人そして副代表 3 人を設けてはどうかと考えています。

全体会の副代表 3 人については、すでにご承認頂いている部分の「建設部会」ハード部分の検討、「運営部会」ソフト部分の検討、それと電算化部会これもソフト部分ではあるのですが、特に電算化については特別な議論が必要ということで 3 つの部会に分かれて議論をする、その各部会で部会長と副部会長をご選出頂きまして、部会長 3 人が代表を補佐する形で全体会の副代表を務めて頂くというように考えてございます。

今までの幹事会に代わり、全体会に出る沢山の議論のまとめ役や、また部会の調整役が必要になりますので、それらを整理して全体に提案する役割の図書

館準備室というものを設けてはどうかと考えています。

この準備室には館長に決まりました花井裕一郎さんが、12月1日以降常駐されますのでそちらで纏めて頂いて、全体会の代表・正副部会長・事務局・職員プロジェクトチームの皆さん、そして有識者などで構成して、準備室の全体の調整や運営を図る、次に月1回位古谷先生をお迎えして行われる全体会やワークショップについての運営やご提案を申し上げるというような役割をこの準備室が担ってはどうかと考えています。

それで設計者ということで町民の外に持ってきてありますが、先生と皆さんと随時議論しながら意見交換するというので、基本構想にもご尽力いただいた職員のプロジェクトチームの方に事務局として全体会・部会の全体の指揮方向の取りまとめや、記録などの補助をして頂くということで、職員のプロジェクトチームの皆さんを中心に、役場職員の皆さんには建設部会・運営部会・電算化部会の各部会に3人ぐらい担当者を置いていただき書記役・事務局役などをして頂いたらどうか考えています。

そして、この体制で再来年の4月オープンまで進めていきたいと考えています。それから、建設部会・運営部会・電算化部会のそれぞれの一番忙しい時期のピークというのは時間差があります。建設・運営は早速始まりますが、来年がかなり忙しい、また電算化も来年ではないかと思うのです。そういう意味で、今回建設部会に希望された方も運営部会に希望された方も、各部会に参加するのは自由にしてはどうかと考えております。以上が私どもからのご提案なのですが、この組織案についてご意見頂いて決めていきたいと思っております。よろしくおねがいします。

(教育長) 図書館建設運営委員会組織(案)についてご意見ございますでしょうか。よろしければ、次にいきたいと思っております。

(2) 役員の選出について

(教育長) 3つの部会についての役員の選出に入りたいと思っておりますが、まず其々の建設部会・運営部会・電算化部会の上に図書館建設運営委員会全体会を仕切ってくださいの代表の方を、最初に選んでいただきたいと思っておりますが、どなたにお願いしたらよろしいでしょうか？

(委員) 大変ご苦勞かと思っておりますが、今までの会議或いは図書館建設幹事会、それらのまとめ役をしていただきました木下豊さんに、建設運営委員会の代表になって頂ければと思うのでございますが、私からの提案でございます。

(市川教) 提案頂きましたけれども、皆さんご承認頂けますでしょうか。

(承認拍手)

ありがとうございます。ご推薦頂きまして、木下さんに是非お願いしたいと

思います。木下さんよろしく申し上げます。それでは一言ご挨拶頂いて、次の各部会の協議ということで進めさせて頂きたいと思います。

(木 下) もともと力がありませんので、今までも人様のお蔭でここまで来られたと思っています。あまり自分を主張しないで気合を抜いてやっていきたいと思います。私は10年ほど前に自宅を新築しまして、その時に設計者の方をお願いしたのですけれど、沢山の要望をした後黙って聞いていた設計者の方が、一言だけ言わせてくれと私に言ったのは、どんなに優れた建築家を迎えても施主以上の家は出来ないと言われました。それを町立図書館に当てはめると、どんなに優れた設計の皆さんを迎えても、私たち住民以上の図書館は出来ないということだと思います。ですから、ここに来られている皆さんは本当に無償で、良い図書館を造りましょうと言う気持ちで、自分の時間使ってきている方々ばかりだと思いますので、この当初の純粋な気持ちを最後まで忘れずに運営、図書開館した後も良い図書館を造るという気持ちで、まとまっていけたらなと思います。

当然、部会での議論の時では対立もあるかもしれないのですけれど、もともと人間なんて力がないし欠点だらけですので、相手の欠点を気にしはじめたら喧嘩になってお互いの力削ぐだけですので、良い図書館を造ろうという富士山の頂上に向かって、対立するのではなくて皆で手を繋いで同じ方向に向かって仲良く議論していくような、図書館運営委員会で在りたいと思っています。

皆さん是非ご協力をよろしくお願い致します。

(教育長) 素晴らしい気持ちを伝えて頂きました。是非皆さんの気持ちをここに込めて心一つにして、富士山に向かうという言葉の通り素晴らしい図書館が出来ますようにどうぞよろしく願いいたします。

(3) 各部会の協議について

(教育長) では、続きまして各部会の協議入らせて頂きます。

(木 下) それでは部会の協議なのですが、入り口で、建設・運営・電算化というように分かれて頂いていますので、その皆さんで円陣を組むような形になって、話し合いを始めて頂きたいと思います。

これから皆さんには最初に、部会長と副部会長の選定をお願いします。16日以降の全体会、専門部会の日程についても、出来れば話し合って頂きたいのですが、次回の建設運営委員会の日程だけは11月26日の午後6時からと事前に決まっています。以降についてはこれから皆で決めていきます。

また部会単位の開催もありますので、主婦の方、お勤め人、自営業、農家の方も来ていますし、空き時間が違うので昼間の開催又は土日の開催という事も含めて議論して頂けたらと思います。今日は15分ほどで、役員の決定と委員さん同士の顔合わせをお願いします。

そして、今日だけの進行役と考えていただきたいのですが、今までの幹事7人の皆さんが、其々均等に各部会に入っています、その方達に会長・副会長が決まるこの15分間の仕切り役をお任せしたいと思いますよろしくお願いします。では始めてください。

——約15分——

(各門部会に分かれて・副会長の選定に入る)

- (木 下) では専門部会毎の話し合いを終了していただいて、各部会、建設、運営、電算化の順番で、部会長さんになられた方が部会長と副部会長のフルネームを発表して下さい。板書しますので皆さんメモをお願いします。
- (池 田) 建設部会の会長となりました池田雅子と申します。よろしくお願いします。
副会長については、今日欠席されているのですが、石崎鍬さんをお願いしたいということで、もし説得が出来ない場合は黒岩吾子さんをお願いします。
- (木 下) では石崎さんが副として黒岩さんは書かないでおきます。
- (小 林) 運営部会は会長が小林正子です。それと副部会長さんは小山岩男さんです。よろしくおねがいします。
- (小 山) 電算化部会は、先ほどお帰りになられたのですが吉田健二さんで、副会長は小山洋史です。
- (木 下) 以上のように、会長・副会長を決めていただきました。それで、先ほどの確認事項の通り、各部会の会長・副会長は、図書館準備室での運営をお手伝いいただくということでよろしくお願いします。

4. その他

(教育長) 大変長時間にわたってありがとうございました。初顔合わせもでき、役員の皆様方も決定しまして、これからどうぞよろしくお願いいたします。

それでは事務局から、2点ほど連絡させていただきます。

1点目ですが、今日のような古谷さんを交えてのコミュニケーション、キャッチボールができる日を今決めていただきましたので、お知らせいたします。

来月12月17日(月)、この日は夜ですが古谷さんの予定で午後7時30分になります。

1月は1月16日(水)の6時頃。状況によっては7時ということになります。

2月は2月15日(金)。

3月が3月19日(水)です。小学校の卒業式と重なりますがこの日をお願いしたいと思います。

特にまた、ご意見ありましたらお願いしたいと思います。

2点目ですが、先ほど、会長、副会長に、選出頂きました6名の皆様、この会議終了後、ここにお残り頂きたいと思います。宜しくお願い致します。

5. 閉会

(教育長) 大変長時間ありがとうございました。本日の予定していた内容については、全て、終了致しましたので、大変ありがとうございました。

これから、いろいろ始まり会議が重なるかと思えます。

古谷先生がお見えにならない間にも、現場に足を運んで頂くというような事も可能でございますので、それぞれの部会ごとに、計画を立てて頂きたいと思えます。

それでは、皆さんどうもありがとうございました。古谷先生ありがとうございました。宜しくお願い致します。